

乙 第 号

菊井祥二 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	川口昌彦
論文審査担当者	委員	教授	岸本年史
	委員(指導教員)	教授	杉江和馬

主論文

Clinical profile of SUNCT/ SUNA in Japan: A clinic-based study

日本における SUNCT/SUNA の臨床像：クリニックベースの研究

Shoji Kikui, Junichi Miyahara, Hanako Sugiyama, Kentaro Yamakawa,

Yoshihiro Kashiwaya, Kumiko Ishizaki, Daisuke Danno, Takao Takeshima

Cephalalgia Reports 2019 Feb 20; 2: 1-6 (Epub ahead of print)

論文審査の要旨

結膜充血および流涙を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(short-lasting unilateral neuralgiform headache with conjunctival injection and tearing: SUNCT)と頭部自律神経症状を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(short-lasting unilateral neuralgiform headache attacks with cranial autonomic symptoms: SUNA)は三叉神経・自律神経性頭痛に分類される稀な一次性頭痛である。ともに一側の眼窩部を中心に 1~600 秒間持続する中等度~重度の頭痛発作で、SUNCT は同側の充血および流涙、SUNA は同側の充血または流涙のどちらか一方を伴う。SUNCT/SUNA の報告は欧米中心で、本邦からのケースシリーズの報告はなく、本邦の SUNCT/SUNA の臨床像を検討した。

対象は 2011 年 2 月から 2017 年 1 月までに富永病院を受診し、国際頭痛分類第 3 版に基づき、SUNCT/SUNA と診断された 20 例で、SUNCT 11 例（男性 8 例、女性 3 例、59.5±20.5 歳）、SUNA 9 例（男性 5 例、女性 4 例、51.3±18.4 歳）である。

20 例の発作の平均持続時間は 91.9±87.9 秒で、随伴症状は鼻漏が 9 例(45.0%)、顔面の発汗が 1 例(5.0%)でみられた。治療はラモトリギンを用いた 9 例全例で有効性がみられたが、2 例で皮膚症状の副作用がみられた。痛みが激しい症例に対して、短期予防として施行したリドカイン持続静注は 6 例中 5 例で有効性がみられた。本邦の SUNCT/SUNA 症例は欧米と同様にラモトリギンとリドカイン持続静注が有効であった。

本研究は本邦における SUNCT/SUNA 症例を詳細に検討した貴重な研究結果であり、本疾患の診断や治療において重要な役割を果たすことが期待できる有意義な研究であると評価する。

参 考 論 文

1. 微小血管減圧術が奏効した結膜充血と流涙を伴う難治性の短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(SUNCT)の1例
菊井祥二, 宮原淳一, 杉山華子, 柏谷嘉宏, 竹島多賀夫
BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩 68 卷 8 号 Page951-955(2016.08)
2. リドカイン持続静注が奏効した結膜充血と流涙を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(SUNCT)の1例
菊井祥二, 宮原淳一, 柏谷嘉宏, 竹島多賀夫
神経内科 82 卷 3 号 Page314-317(2015.03)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに臨床神経筋病態学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和元年 9 月 10 日

学位審査委員長

侵襲制御・生体管理医学

教授 川口昌彦

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教授 岸本年史

学位審査委員(指導教員)

臨床神経筋病態学

教授 杉江和馬